

○議長（吉田敏郎）

8 番、山本研一議員、どうぞ。

○8 番（山本研一）

これから8 番議員、山本研一の一般質問をはじめさせていただきます。

通告に基づき、町民サービスについて、町のお考えを伺います。

開成町は、人口減少が進む県西地域の中で唯一、人口の増加傾向が続き、今年3 月からは開成駅に急行が停車し、人口増加に拍車をかける環境が整いました。

さらに現在建設中の役場新庁舎も予定どおり進行し、2020 年5 月のゴールデンウィーク明けからは供用が開始される運びになっています。

また、瀬戸屋敷周辺では北部交流拠点施設の建設や駐車場の拡張が行われ、建物をはじめ公共施設整備などハード面の充実を着々と進んでいる現状にあります。

しかし、町民にとって建物などが立派であることだけで、移り住みたい町、住んで良かった町、住み続けたい町と果たして言えるのでしょうか。

立派な新庁舎の外見にふさわしい中身、町民サービスの向上や、安全・安心が担保され、子育てや教育、高齢者が健康で元気に過ごせるなど、町民が身近で肌身を感じる福祉の充実が大変重要であり、ハード面の充実と中身の充実をバランスが取れてはじめて、住みたい、住み続けたい居心地の良い町になるのではないかと考えます。

そこで本町における町民サービスについて、町のお考えを伺います。

○議長（吉田敏郎）

町長。

○町長（府川裕一）

それでは、山本議員の御質問にお答えをいたします。

私の考える町民サービスとは、町民が必要とする公的サービスを提供することであり、さらにそのサービスを、町民の目線に立って向上させていくことが大切であると考えております。そのような考えのもと、あるべき町民サービスの形を端的に三つ申しあげます。

一つは、真に必要な方に迅速に届く、満足度の高いサービス。

次に、適正なコストと受益者負担で届くサービス。

もう一つは、安定的、または持続可能な形で届くサービスであります。

ここでいうサービスは、ソフト面だけではなくハード整備も含み、車の両輪としてともに取り組んでいく必要があります。

どちらを優先するというのではなく、時代の状況や町の課題等を勘案し、その時行うべき事業を、誤りなく選択していくことが基本と考えます。

現在は、新庁舎建設や北部の交流拠点整備、ハード事業が目立っているかもしれませんが、決してソフト事業をおろそかにしているわけではありません。

また、町民の皆さんの中には、さまざまな御意見や御要望があることも承知をしております。

私は町長として、その時々で必要な事業について内部で十分議論をし、責任を持って優先順位をつけ、必要な財源もしっかり確保しながら町政運営に努めております。

これまでも町民サービスの向上を目指し、さまざまなことに取り組んでまいりました。

一例として申し上げますと、「子育て・教育」では、開成幼稚園での3年間教育、あじさい塾、いわゆる土曜学校の充実、小児医療費助成の対象拡大、病児保育事業の開始。

「安全・安心」では、水害対策の強化として、洪水ハザードマップを更新し、浸水対応避難訓練を実施しました。

「福祉・健康」では、高齢者の在宅生活を支えるための生活支援サービスの提供、健康寿命の延伸を目的に健康づくりプロジェクトの実施や、高齢者の方の日常生活の利便性を向上することを目的とした、町内巡回バスの運行などが挙げられます。

全国的に人口減少、少子高齢化が進む中、開成町は、これまでの取り組みの結果として、人口増加率や合計特殊出生率が県内市町村でトップとなり、みなみ地区を中心に若い世代の転入が増え、元気な町といわれております。

今後も駅前通り線の整備や老朽化する施設の修繕など、必要な経費がかかることが見込まれますが、補助金など必要な財源はしっかり確保し、事業を推進していきたいと思っております。

なお、現在、新庁舎整備が着々と進んでおりますが、業務開始時にどのように町民サービスを向上させるかが大切であります。

新庁舎では、今までのハード面での不便さは解消されますが、それだけではなく、供用開始を契機に、さらなる窓口のサービス向上を図るため、役場窓口での対面サービスの充実を図っていきます。そのため職員の接遇力の向上を図る職員研修、ワンストップサービスの実行に向けた職員説明会の実施など、現状でできる準備は既に取り組んでいるところであります。

目指すべきワンストップサービスは、単純に移動距離や所要時間を短くすれば良いというものではありません。お客様に利用しやすく、分かりやすく、親切的窓口の実現を目指すべき姿として実施をしていきます。

冒頭に申しあげたとおり、ハードとソフトのバランスを考慮し、町民に満足していただけるような町政運営に当たっていき、このすばらしい開成町を次の世代にバトンを渡すべく、これからも町の発展に全力で臨んでいく所存であります。

以上であります。

○議長（吉田敏郎）

山本議員。

○8番（山本研一）

それでは、再質問をさせていただきます。9月議会において、本町での最も重要な課題は何かという質問を行ったところ、町長からは、駅前通り線周辺地区土地区

画整理事業との答弁がありました。また、この事業の総額はおよそ４０億円という答弁もありました。開成町の将来を展望した時、急行が停まり、多くの乗降客で賑わう駅周辺はいわば町の顔、したがって、駅前通りとその周辺の整備は、まちづくりにおいて大変重要な課題であることは、私も認識しております、と申しあげた上で、しかし、町民の皆さんが考える課題は、町民サービスの向上と福祉の充実だという発言をいたしました。

この一般質問の質疑応答の内容は、議会だよりのほかに、私からインターネットや紙の媒体を使い、約１千７００件の皆さんに発信をいたしました。それに対して、メールや電話、お会いする機会などを通じて、多くの反響をいただきました。

反響の多くは、町民の皆さんが考える身近な課題としての町民サービスに対する、町長が発言された、自分のことは自分で考えていただけるような、町民の皆さんになっていただけるような促しはしていく必要があるという答弁に対してであり、町民の皆様からは、その発言に対する不安や疑問の声でした。

そこで今回、「町民サービスについて、町の考えを問う」という質問をしました。ただいまの町長答弁は、まさに町民が望む、そうあってほしいというサービスの内容だと受けとめました。

しかし、この答弁は、９月議会における町長答弁とは何の脈絡もない、脈絡がないどころか、全く違う答弁ではないかと感じました。自然災害が大型化し、かつて想定もしなかった災害が発生している今日、災害時や、その備えで自分の身は自分で守る、自分のことは自分で、そういうことは町民の皆さんが認識していることだと考えますが、町民サービスを求める町民の声に対して、自分のことは自分でと言われれば、心配になるのは当然だと思います。

この９月議会の答弁と、今回、ただいまいただきました答弁が違う内容になっていることについて、一体どちらが町の考えであり、町長の本当の思いなのでしょう。町長に伺います。

○議長（吉田敏郎）

町長。

○町長（府川裕一）

申しわけないのですけれども、質問内容がよく分からないところがあります。自分のことは自分のことと、そこだけ取り上げていますけれども、何のときにそういうふうに言われたか、私もちょっと記憶にないのですけれども、そのあたりも含めて。

まず９月のときには、町の何を最優先で、これは進めていくということで、駅前通り線が難事業であるということの中で、私の中で、それを最優先ということで話をさせていただきました。

今回は町民サービスということの中で、整合性がないということの言われ方がよく分からないのですけれども、サービスはさまざまあります。総合計画に載っていることをきちんと実行していくことは、全て町民のための計画であります。それを

きちんとやっていくこと。それが全てサービスと私は思っております。それはハードだけではなく。この町長8年間の中で、全てハード事業をやってきたわけではなくて、ここにきて、北部地域の活性化の中、また新庁舎ということで、今、ハード事業が目立っておりますけれども、先ほど一例で挙げましたけれども、さまざまな子育て支援のほか、福祉事業に対して、サービス事業を新規に、町民の皆さんのために実施をしてきたというふうに私は認識をしております。

○議長（吉田敏郎）

山本議員。

○8番（山本研一）

よく分かりました。今の言った言わないとか、思いが違うとかというのは、基本的には傍聴されていた方々がよく御存知で、ここで論点にするつもりありませんので、次の質問に入らせていただきます。

今の町長答弁でいえば、今回、町長が答弁されたことをベースに、まちづくりあるいは町民サービス、福祉の向上に当たられるという理解で話を進めさせていただきたいと思います。

今回の答弁は、総論ではまさにそのような考えで町民サービスを行ってほしいと、町民の皆さんも誰もが思える内容だと思います。特に町民にさまざまな意見や要望があることは承知している。その時々で必要な事業について、内部で十分論議し、責任を持って優先順位をつけ、必要な財源もしっかり確保を行う。私はまさに言われるとおりだと思います。町民の意見や要望について、私も9月議会以降、これまで、先ほど申しあげましたが、ただ一方通行の発信をただけではなく、ミニ集会やさまざまな方法で100人を超える町民の皆さんの御意見を伺ってきました。

町長答弁にも、ここでのサービスとは、ソフト面だけではなく、ハード整備も含め、車の両輪としてともに取り組んでいく必要がある。とありましたが、そのとおりで、町民の皆様から出された意見を挙げても、防災や下水道、町道の安全確保、河川や官地整備の問題など、ハード的なものから、巡回バスに対する要望、子育てや、高齢者、障がい者福祉、町事業の受益者負担の内容など、ソフト面もあり、大変多岐にわたる御意見や要望を伺いました。このように町民の皆様にはさまざまな意見や要望があります。しかし、御意見の中で共通した思いや不安は、新庁舎に大きなお金をかけて、私たちの町民サービスについての意見や要望は、お金がないから、なかなか実現が難しいのではないかという心配でした。それぞれの家庭のことを考えても、マイホームを購入したためにローンの返済などで日常生活は質素に契約しなければならないというのが一般的だと思います。しかし、開成町の場合、地方紙にも掲載されますが、日本初などとうたわれる充実した装備と、まるでホテルだと言う方もおられる立派な外見の新庁舎、元気の良い町に立派な庁舎ができること、環境面では最先端をいき、町のランドマークとして、町外の方に自慢できる庁舎ができること。これは開成町民にとって大変誇らしいことだと思います。

しかし、それをつくったために、そのしわ寄せや負担を町民がこうむるようにな

ったら、まさに本末転倒だと思います。町民の皆さんの御意見を聞いて、今年度や来年度の中で、予算を必要とする町民サービスが停滞したり、受益者負担が増えたり、今までかからなかった費用負担が新たに発生したら、多くの町民の皆さんは、やはり立派な新庁舎をつくったから町にはお金がないんだ、そう思うのは間違いないと思います。お金がないから、みんなが望むような町民サービスの向上はできないのではないかとという町内の多くの皆さんが感じている不安の声、町長の耳にもそういう声は当然届いていると思いますが、これに対して町長の見解をお聞かせください。

○議長（吉田敏郎）

町長。

○町長（府川裕一）

今、新庁舎建設によって、町民の皆さんの負担が増えるというふうな話がありましたけれども、新庁舎建設のときのまちづくり町民集会の中でも、そういう声がありました、実は。それによって、税金が上がることはないのかという心配の声もありました。このとききちんと今の開成町の財政力、また財政推計、庁舎を建てるに当たり、幾ら借り入れて、どのような返済をしていくか、きちんと説明をさせていただいて、大丈夫ですと。

また、町民の皆さんには、毎年、町の広報かいせいの中で、今の財政の状況、これをきちんと提示をしておりますし、議会の皆さんには、決算書の中で開成町のさまざまな指標をあらわす数字があります。公債比率とか、財政力指数、さまざまそういう中で、監査委員さんからも指摘をきちんといただいておりますけれども、今の財政は、開成町はきちんとやってると。はじめて今年度監査になられた方も、開成町はこんなに良い財政なんだということを驚かれていた。そういう声も直接、私は監査委員さんから聞きました。今の開成町の財政というものをきちんと議員の皆さんにも、町民の皆さんに正しく伝えてほしいなと。我々もちろん、きちんといろいろなところで、さまざま、大丈夫ですと。

今回の新庁舎によって、値上げすることはないか。先ほど言いましたけれども、サービスの中で適正なコストでやっていただくことは、これはこれからもあります。これは建設があるか、したかどうかという話ではなくて、水道事業、下水道事業ほか、さまざまそれぞれの独立した会計の中でやっていくというのが基本にありますので、そういう中で、適正なコストの中で値上げすることがあるかもしれません。それはきちんと審議会ほか、さまざまな御意見の中で答申を受けてそれに沿って決定をしておりますので、きちんと皆さん方に、そういう値上げをする時においては、その財政の中とは関係なく、水道事業の中で、例えば、水道事業の中で値上げをするということになりましたら、その説明をきちんと丁寧に、なぜそういうことに、値上げすることになるのかということとは、きちんと説明をして、納得していただけるような丁寧な説明は、これからしていきたいと考えています。

○議長（吉田敏郎）

山本議員。

○ 8 番（山本研一）

財政指数とかが開成町は特に悪いとか、そういうことを私は申しあげているつもりは全くありませんので、町民の皆さんの単純な声、要はこれだけ立派な庁舎ができたなら、本当にお金は結構かかっているだろうな、大変になるのではないか、そういう声をお届けしたつもりでございます。

「あじさいのまち開成自治基本条例」の中にも、第 13 条に「町長は、常に町民全体の福祉の向上のために職務を遂行し、町民のための町政を行わなければなりません。町長は、町民の意向を適切に判断し、町政の課題に対処しなければなりません。」、こううたわれております。財政力指数がどうだ、あるいは監査委員の評価がどうだ、そういうことが町民の末端の皆さんに、本当によく理解できるとは当然思えません。町民の皆さんは自分の目で見、そして自分の肌で感じる自分の住まいの周りの環境、そういうことで町民のサービスの向上が得られたかどうか、あるいは福祉の充実した町に住んでいるかどうかということを判断しているのだということとは、ぜひ御理解いただきたいと思います。

それでは、特に財政もしっかりという答弁がありましたので、多岐にわたる町民要望について、できるだけ多くの要望を応えるには、たとえ問題ないとしても、予定された財源以外に新たな財源確保というのも大変重要であり、そのためには町長の率先した行動と強いリーダーシップが不可欠だと思います。

町の運営も企業と同じように、基本的には無駄遣いはせず、そして、できるだけ入るお金は増やすというのは当然のことだと思います。そういった意味で、新たな財源確保について、町長は御自身でどのように考え、また、どのように実践されていくつもりなのか、お伺いします。

○議長（吉田敏郎）

町長。

○町長（府川裕一）

一番安定的な財源、税収アップというのは、やはり新たに人に住んでいただいて、その固定資産税、所得税、町民税をいただくと。いろいろ企業誘致によって、税収アップということも、もちろんあわせてやる必要はありますけれども、企業というのは、その時々によって波があって、税金が納めていただく税収がゼロという時もありますし、波があります。一般の町民税というものは、安定的に固定資産税を含めて入ってくる大事な税財源だと思いますので、やはりこれから、駅周辺の区画整理が終わりましてけれども、急行停車が決まり、まだまだ開成駅周辺の新たな流入を促していくということが、これからのまだまだ課題として残っている。そのために、駅周辺整備をこれからまた進めていくということの中で、さらに大事なものは駅周辺だけではなくて、開成町を選んでもらうときに一番多かったのは、自然豊かなところとアンケートの中でありますので、北部地域の豊かな自然を守りながら駅周辺整備していくと、あわせた形で進めていくことがすごく大事だと思っています。

す。

以上です。

○議長（吉田敏郎）

山本議員。

○8番（山本研一）

基本的には、財源確保は住民が移り住んでいただくということで言えば、中身の充実が大変重要だと私は思います。

答弁の中で、あるべき町民サービスの形を端的に言うと、真に必要な方に迅速に届く満足の高いサービス、それから適正なコストと受益者負担で届くサービス、安定的または持続可能な形で届くサービス、と言われましたが、端的と言うより、若干抽象的ではないかというふうに思いますので、町民サービスは、町長の政策の大事な、大事なというよりも、基本的な部分だろうと思います。町長のお考えがしっかりと反映され、浸透されて進める必要があると思いますので、町長のお考えを伺いますが、町民の皆さんに分かりやすくするために伺います。

まず、真に必要な方に迅速に届く満足度の高いサービス。真に必要な方に、これはどういう意味でしょうか。

○議長（吉田敏郎）

町長。

○町長（府川裕一）

一番は、障がいを持った方とか、さまざまな公的補助が必要な方に対して、どのようなサービスをできるかというのが、一番私は基本的に大事なことだと思います。

○議長（吉田敏郎）

山本議員。

○8番（山本研一）

では、この1番目は、特に障がいを持たれた方という理解でよろしいのですね。

では、次ですけれども、適正なコストと受益者負担で届くサービス。これも先ほどおっしゃっていましたが、誰がどう判断して適正なコストというのかが分かりませんが、私が一般的に考える、この中で受益者負担といえ、適正なコストというのは、近隣の町、自治体と比べたり、あるいは開成町と同規模の自治体と比べるという以外に、何が適正かというのは、なかなかはかりにくいものではないかと思います。

適正なコストと受益者負担で届くサービスというのはどういう解釈をすればいいのか、町長の考えを聞かせてください。

○議長（吉田敏郎）

町長。

○町長（府川裕一）

さまざまあります、先ほどお話ししたように、水道料金というのは、一番分かりやすいのかなというふうに思います。それぞれの原価率ほか、さまざまあります。

今言われたように、近隣の水道料金ほか、適正に比較しながら、今の開成町はどうかというふうな判断の中で、それは審議会に答申をさせていただいて、審議をいただいた中の結論をもとに決定をしておりますので、これは水道だけではなくて、さまざまそうなのですけれども、町のさまざまな金額、負担をしていただくときには、さまざまな近隣のほか、いろいろな調査をしながら決めさせていただいて、最後、決断をするという形で、手続はとっています。

○議長（吉田敏郎）

山本議員。

○８番（山本研一）

今の言い方だと、開成町が近隣より突出するようなことはないという理解でよろしいのでしょうか。

○議長（吉田敏郎）

町長。

○町長（府川裕一）

開成町だけ突出して負担が多いということは、私はないと思っています。

○議長（吉田敏郎）

山本議員。

○８番（山本研一）

分かりました。それでは、とにかく近隣並みの受益者負担で、町民サービスを届けるよということで理解をいたします。

安定的、または持続可能な形で届くサービス、これについては、町長の考えはいかがですか。

○議長（吉田敏郎）

町長。

○町長（府川裕一）

さまざまありますけれども、今回の新庁舎建設についても一つに入るのかなと。防災の拠点という意味で、皆様に安心サービス、安心な開成町に住んでいただくということは、すごく安全・安心ということで、大事なことであります。すぐそれがコスト的に目に見えるかということではないかもしれませんが、そういう意味で、さまざまソフト面においては、とにかく特に安定的な、持続的なサービスという形で進めていきたいと思っています。

○議長（吉田敏郎）

山本議員。

○８番（山本研一）

それでは、町長が、９月議会でちょっとおっしゃった内容で、よく議員さんもいろいろな質問をします。それを一つ一つ、全部開成町が受けていたら、幾ら財源があっても足りないとは思っているという発言をされました。幾ら財源があっても足りないほど、開成町の町民サービスは遅れているのでしょうか。私はそのよ

うなことはないと思っていますし、限られた予算の中で、部課長さんはじめ、職員の方々が頑張って、一生懸命やってもらっているなというふうに思っていますが、お金をかけなくても、町民サービスの向上は、させられるアイテムはたくさんあると思います。

このお金が幾らあっても、サービスを向上させるのには足りないという根拠はどのようなものなのか、町長に伺います。

○議長（吉田敏郎）

町長。

○町長（府川裕一）

さまざま、議会の皆さんからもいろいろな御提案をいただきます。特に多いのは、多分私の印象的な話で申しわけありませんけれども、外の先進事例があって、それを開成町でも取り入れたらどうかということ。さまざま開成町がいち早くやったらどうかという話。また、もっと今のサービスにプラスアルファをしたらどうかという提案、さまざまいただきます。それぞれを確かに良い提案ももちろんありますし、すぐやろうというものもありますし、それを全て受け入れては、なかなか財政的にできないので、やはりそれは仕訳をして、今必要なものはどれかという判断の中でサービスを提供させて、プラスアルファをさらに提案させていただいてというのが、現実的だと私は思っています。

○議長（吉田敏郎）

山本議員。

○８番（山本研一）

それでは、町民サービスの一例ということで、いくつかこれまでに実施されたサービスの向上の例が、先ほどの答弁で述べられました。これらについても、町民の皆様からは改善要望がいろいろ出されている。町長も御承知かもしれませんが、例えば今、北部の方々にとって、町内の巡回バスというのは大変貴重な移動手段です。これをさらに便利にしたい、こういう御意見は北部を中心に交通の不便な方々からは大変多くあるのが現実でございます。

あじさいのまち開成自治基本条例、さっき町長のことは言いましたけども、「議会は、常に町民の意見の把握に努め、町民の意思を町政に反映させるように努めなければなりません。」とありますので、町民の皆さんの声をお伝えしているわけですが、答弁で挙げられたいくつかの例に対して、さらに向上したいあるいはこういうふうに改善してほしい、こういう声というのは町長には届いているのでしょうか。

○議長（吉田敏郎）

町長。

○町長（府川裕一）

今の、北部の巡回バスの話、だけではないですよ。さまざま巡回バスもそうですけれども、自治会長会議もありますので、それぞれの地域の要望、意見はその時々

できちんと受けとめておりますし、できるものは、すぐ改善していくという中でやっております。

巡回バスについても、特に北部地域の皆さんが、足の確保、交通の確保ということの中で実施をさせていただきました。そういうさまざまな要望の中で、停留所ほか、地元の自治会の皆さんの御意見を聞きながら、バス停を増やしたり、移動したりということは、常に定期的に見直しをしながら、御意見を吸い上げながら改善をしていっております。

以上です。

○議長（吉田敏郎）

山本議員。

○８番（山本研一）

府川町長はハード面の事業をすることが町長の仕事だと考えてるようだ、町長に直にそう言う人はいないと思いますので、なかなか自分の耳には入ってこないかもしれないませんが、町内はもちろん、町外からも言われていることです。

しかし、今回の答弁は、建物などのハード面と町民サービスという中身の向上を車の両輪のようにバランスよく進めるという思いを示していただきました。

現在増え続けている人口も、いろいろな推計によれば、あと数年でマイナスに転じるとされています。開成町の人口増加の大元とも言える、南部に移り住まわれた方々が、いつまでも定住したいと思えるのは、立派な庁舎や建物では決してないと思います。町民サービスが行き届き、子育てがしやすく、教育レベルが高く、高齢者や障がい者が楽しく暮らせる、福祉の充実した人に優しい町こそが、いつまでも住み続けたい町だと思いますが、町長はこれについてどのようにお考えでしょうか。

○議長（吉田敏郎）

町長。

○町長（府川裕一）

私が町長になっていつも言っていることは、自分が自治会長を経験したということもありますけれども、地域の人、開成町に住む人、人が元気というのが一番大事だと。確かに人口も伸びて数字は良いです。そういう話はしますけれども、やはり根本的には、開成町に住んでいただいている方が、それぞれの地域の中で活動しやすいようにということで、自治会に対しての支援は特に力を入れているつもりであります。それだけではありません。やはり多くの人々が、開成町に住んで良かったと思えるということは、人の気持ち、心でありますので、そういうところを大切しながらこれからもやっていきたいと思っています。

○議長（吉田敏郎）

山本議員。

○８番（山本研一）

ちょっと言葉は違いましたけれども、私が町民の皆さんの思いとして、お話しさせていただいた内容と同じだという理解をしてよろしいのですか。

○議長（吉田敏郎）

町長。

○町長（府川裕一）

同じかどうか。私が今言った、自分の気持ちをお話しさせてもらっただけですけども。

○議長（吉田敏郎）

山本議員。

○８番（山本研一）

そう言われれば、そういう理解をするしかないのかなと思いますけれども、自治会の活動にも触れましたので、町民サービスの中で、自治会の活動というのは、私も大変重要だと思っております。自治会について特に力を入れて、町民サービスの一環として力を入れるというお話がありましたけれども、具体的に町長の思いとして、自治会に対して、どのような思いを持たれているのか、お伺いしたいと思います。

○議長（吉田敏郎）

町長。

○町長（府川裕一）

各地域の夏祭りとか、文化祭、敬老会ほか、さまざま自治会のところに出向いて、それぞれの地域性またはやり方が、この小さな開成町の中であっても、自治会によってやり方が違うのだなというのは、すごく感じています。開成町の中で、一律にそれらの地域の自治会が、同じようなことではなくても、その特性に合ったやり方の中で、地域性の中で進めていくというのは、すごく大事にこれからはしていきたいと思います。

しかし一方で、今、自治会の活動の中で、自治会の加入率や子ども会の問題、自治会の役員さんが見つからないという問題、さまざまあります。今年度もまちづくり町民集会の中で、自治会活動のあり方について、地域の自治会の役員さんたちと意見交換をしながら、自治会の進め方、やりやすい進め方について意見交換をしながら、できるだけ自治会の皆さんの負担を減らしながら進めていきたい。それによって、地域の活動がしやすくなって、地域が元気になればというふうな思いで、自治会に対しては思っております。

○議長（吉田敏郎）

山本議員。

○８番（山本研一）

今、自治会の負担をできるだけなくすようなというふうな発言がありました。これは大変重要なことだと思います。今、やはり町民サービスの原点というか、一番身近なのは、自治会の活動で、自治会の活動が活発で、自治会の要望がきちんと町に届けられ、それが実行されるというのが、町民の皆様にとっては、一番近道であって、話しやすい、言いやすい、そして、訴えやすいルートだなというふうにも思

います。そういう面では、自治会の負担軽減とかいう話が今出ましたので、具体的に町長の頭の中で、今なり手が不足しているという話もありました。実態は御存知のようですから、それに対してはいずれまた、一般質問でいろいろな自治会のことについてお話をさせていただきたいと思いますし、また、町の御意見も伺いたいと思っておりますけれども、今、町長の頭にある中で、自治会の役員さんの労力を少しでも軽減させてあげようと、そういった具体的な策があれば、お聞かせいただきたいと思います。

○議長（吉田敏郎）

町長。

○町長（府川裕一）

自治会の負担については、今年度自治会長さん、また、過去やったOBの皆さんからアンケートをいただきました。その結果をもとに、これからまちづくり町民集会の中で、全地域を回って意見交換をしながら、何が一番自治会にとって負担に感じているのか。この中で、町が代替ができる方策を見つけていくということがすごく大事だと思います。

一例でいいますと、おしらせ版ほか、あれを配ることが月に2回ありますけれども、結構組長さんを含め、負担に思っているということもありますので、それは一例ですけれども、それをという話ではありませんけれども、さまざまな中で、そういう負担を軽減して、自治会の役員さんのなり手を増やしていかなければいけない。でも、現実的には、定年も含めて延びている中で、なかなかその年代の方が開成町の中でいられないというのが現実的なことであります。そういう中で、見つけやすい方策を見つけていかないと、自治会の維持管理がだんだん難しくなってくるという認識の危機感を今持っておりますので、きちんと自治会の皆さんと話し合いをしながら、これから決めていきたいと思っています。

○議長（吉田敏郎）

山本議員。

○8番（山本研一）

今、大変重要なことをおっしゃっていただきました。なり手が不足している要因等も、私が見たり聞いたりしている内容と町長が認識されていることは、全く同じだと思っております。

ただ、町長も言われましたように、定年年齢がどんどん先延ばしされたり、あるいは働きの年齢がどんどん延長していく中で、自治会の担い手というのが不足しているというのは現実だと思います。先ほど言いましたように、今後の一般質問の中でも、そういった論議をさせていただきたいと思いますが、町のほうでも、そういうお考えをいただき、とにかくやはり住民の皆さんというのは、何かあったら自治会の役員さんにまず言って、役場に来るよりは自治会の皆さんにまず御相談をするなり、苦情であれば苦情をする。お願いであればお願いをするというのが一番近道だと思いますし、そういったところのルートをきちんとつくっていただき、担い手

もきちんとあるべき姿を追求していただき、というふうに思いますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

最後に、基本的には私の今回の質問に対する感想ですけれども、さっきも想定外の話をしてしまったけれども、昨今の災害が大型化しているのと同様に、答弁が基本的には、住民の皆さんがこういうまちづくり、こういうサービスを提供してほしいな、そういう内容の答弁をいただきました。したがって、そんなに多くこれについて反論したり、意見をさらに追求するような内容はなかったように、私は第一印象として、答弁を聞いたとき思ったわけですが、ただ、これを実行していただかなければ何にもならないと思います。もし、今答弁でいただいた内容がうまくいっていないな、実行してなかなか思うように進んでいないな、ということがもし町民の皆さんの目に映れば、やはりお金がないのだ、予算がないのだと、そういう話になるのは当然だと思います。現に、先々月そういう河川の問題で、ある自治会で自治会長に相談したら、予算がないから難しいという話を町民の方にされたという現実の話も耳にしました。

したがって、とにかく一番重要なのは、今おっしゃっていただいた町民サービスに対して、あるべき町の姿を言っていただいたわけですから、それをきちっと実行していただくというのが一番重要だと思いますし、町民サービスが停滞したり、あるいは適正という言葉でいうと、何が適正か分かりませんが、受益者負担が安易に増えるようなことがないよう、くれぐれもそういうことがあったら、町民の皆さんは、今何か経済的に町民の皆さんに負担がかかるようなことがあれば、それが良いか悪いかというよりも、現実として皆さんは、立派な新庁舎にお金を使った、こういうふうに思うのが、一般の町民の皆さんの気持ちだと思います。そういう面では、やはりかという声が聞くことのない、町政運営を進めていただきたい。

本日答弁いただいた内容については、折に触れ、一般質問で確認、フォローしたいと思いますけれども、ぜひ答弁に沿った町民サービスを提供いただくということで、町長が今、これについてはしっかり言われたと思っていますので、そういう町民の皆さんに喜んでいただけるまちづくりを期待して、私の質問を終わります。

○議長（吉田敏郎）

これで山本議員の一般質問を終了といたします。